第三里研整備林整備 • 育成管理計画

1. 第三里研整備林の概要

1) 位置と名称

ふるさとの森に位置し、清水の谷に面する I 区の一部とQ区。当該場所を第三里研林整備林 (以下、「整備林」という。) とする。

2) 目標林型区分

I 区は里山保全ゾーンで、現存する雑木林を保全するゾーン。Q 区は修景林ゾーンで、疎林と草原がモザイク状に広がるゾーン。

3) 植生の現状と課題

- (1)整備林の一部には、ヤマユリ、マヤラン、 チゴユリ、イヌゴマ、アキノタムラソウなどの 貴重種が確認されている。
- (2) コナラやヤマザクラ等の落葉樹の中に、 高木のシラカシが目立つ。
- (3) 低木層には、落葉樹も多いが、シュロ、

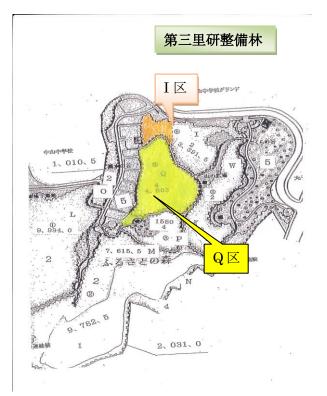
アオキ、ヤツデ、ネズミモチ、マダケ、ヒサカキ等の常緑樹の侵入が見られ、特にアズマネザサ は繁茂が著しく、慌廃感がある。

- (4)草本層(低木層)ではアズマネザサの侵入、繁茂が目立つ。
- (5) ヒノキ、スギ、サワラは手入れ不足で一 部を除いて健全性は見られない。
- (6)整備林全体は手入れ不足で、侵入種の繁茂が著しいため、雑木林を主体とする修景林ゾーンの様相は少ない。

2. 整備計画の策定

1)目標とする植生と利用形態

- (1)落葉樹を主体とした雑木林風の里山に 改善、維持し、散策や自然観察程度のレクリ エーションや環境教育の場に供する。
- (2)整備林全体の保全・利用を考慮したゾ
- ーニングを行う。貴重な植生は保全エリアに位置付け積極的に保全・育成管理する。





(3)整備林本来の林床に生育する自生野生草花が咲き、野鳥や昆虫など生物の多様性が高い雑木林をめざす。

2) 整備計画の策定と作業の実施

第一段階:植生や地形等の環境特性の把握と整備林全体の整備計画を策定。目標とする植生 と利用形態からゾーニングし、整備計画を立てる。

- (1) 散策道を利用し整備林の一部を自然観察や散策に供する。このため散策道周辺は見通しをよくし、雑木林としての植生景観を目指す。
- (2) 保全すべき種や貴重種の保全、シンボルツリー(超大径木)の設定、排除する植生の区分を行う(マーキング)。すでに確認されているヤマユリ、マヤラン、チゴユリ、イヌゴマ、アキノタムラソウは積極的に保全する。
- (3) 野鳥や昆虫、土壌動物など生物の多様性が高い林にするためには、平面的には現在 する植生をモザイク的に残し、立体的には、高木、亜高木、低木、草本などの階層 構造が保たれた林とする。

第二段階:侵入木や望ましくない植生の刈り払い、除伐、間伐、枝払い、つる切り、落ち葉かき等の実施。除伐・間伐木や枝等を利用してカントリーヘッジやエコスタックを整備する。 当面の整備期間は2年程度とする。

≪第一期整備 平成23年5月~7月ごろ≫

侵入木の除伐、ササなどの刈り払い、シラカシ等の伐採と玉切り、蔓切り、カントリーへ ッジの整備

≪第二期整備 平成 23 年 10 月~平成 24 年 2 月ごろ及び次年度≫

刈り払い、シラカシ等の伐採と玉切り、針葉樹の伐採と整理、高木の間伐や枝落とし、カントリーヘッジの整備

整備手順と配慮事項は次の通りとする。

- (1) 水田に面する斜面裾には貴重種が存置するため保全エリアとし適切に管理する。
- (2) 水田に隣接する斜面ゾーンは生きものの生育・生息環境の創出を目指し、また動物の移動空間として、適度に植生を残す。
- (3) アズマネザサ、マダケ、シュロ、アオキ、ヤツデ、ネズミモチ、イヌツゲ、アラカシ等 を除伐や刈り払い作業で原則排除する。しかし、一部の下草や低木は存置させ活用する。
- (4) シンボルツリーはコナラ、ヤマザクラとし保全する。シラカシの超大径木は当面存置。 他のシラカシ等は原則伐採する。
- (5) 平面的にはモザイク的に立体的には階層的に植生を残し、生き物に配慮した植生構造とする。
- (6) スギ、ヒノキ、サワラの健全木を残し、他は伐採する。
- (7) 針葉樹に隣接する箇所は、斜面崩落があった場所と推定され、基本的には現状の植生や 地形を保存する。
- (8) 伐採木は枝払い後玉切し、カントリーヘッジやエコスタックに利用する。

3. 育成管理計画

里山風の雑木林の維持と林床植生の発達のためには、侵入木の排除、アズマネザサ等の定期的な刈り払いや落ち葉かき、明るい林内を保つための除伐や枝落とし、萌芽更新や植栽による林の若返り等の作業を行う。

4. 継続的な調査

自生野生草花などの林床植生や生きものの動向を把握するため、継続的な調査を行うとともに、 順応的管理に供する。

5. さらなる取り組みの検討

高木の萌芽更新、紅葉樹の植栽、コナラ等更新用苗木の育成と植栽、カブトムシの産卵場の 造成、環境教育活動への活用(樹名板等)、癒し空間の創造などを検討する。

6. 提案

水田に隣接する流れにはカワニナが生息し、ホタルの生息・発生が期待できる。このためホタルの生息に供する流れやホタル護岸の整備が望まれる。

(2011年5月)

以上